MAIL Order List 2025-#1 （2025 年 2 月 14 日作成）

www.tambourine-japan.com
email: song@tambourine-japan.com
email: tambour@ya2.so-net.ne.jp



(List 2025-#1 紙版使用表紙ジャケット)
THE HALF ROOM/The Half Room(Ireland)

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。
Ａ￥１９８０(税込み¥2178)　Ｂ￥２１８０(税込み¥2398)
Ｃ￥２３５０(税込み¥2585)　Ｄ￥２５８０(税込み¥2838)
Ｘ￥４８０(税込み¥528)　Ｙ￥９８０(税込み¥1078)　Ｚ￥１４８０(税込み¥1628)
《数字表記価格は税込み》
※発売年が 10 年以上前の商品は検品してお届けします。

（送料）
※ご注文枚数に関係なく《一律１８５円》郵送
ただしＬＰを含む場合は一律６６０円。
※代金引換送料（郵送）：590 円何枚でも）
ＬＰを含む場合は＋２５０円。
注文方法サイト：　http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm

【ご注文はできるだけ 3/1 までにお願いします】
にてお願いします。
●ご注文の際、プライス又はプライス･コードをお書き願います。
●お問合せはメールにてお願いします。



寒波襲来の朝、鹿やキジや猫の足跡だらけ。

（「春よ来い！」2025 年最初の通販リスト）
*冬ごもり中にちょこちょこ仕入れていた商品が通販リストを発行できるほどに入荷しました。今回は米国の SSW（シンガー・ソングライター）系の新譜が最近ではやや多めになりました。Liv Greene, Willie Watson, Joe Ely, Jason Isbell などは去年の秋頃から仕入れを計画していた「一押し」の CD です。咽頭癌寛解期に収録したという Chip Taylor の三枚組は感慨深い新作です。
*英国に Timeline という過去のラジオ音源をリマスターし、音質を改良して CD リリースするレコード会社があるのですが。今回、David Crosby と Crosby Stills & Nash と Fairport Convention と James Taylor の CD を仕入れました。これも去年の秋から仕入れを計画していた個人的趣味の CD です。
*トラッド関係は Mary Chapin Carpenter・Julie Fowlis・Karine Polwart のトリオの新作、ウェールズの Pedair の新作、バルト三国の歌姫四人組の Baltic Sisters の新作、そして男女各二名からなるアイルランドのヴォーカル・グループの The Half Room の新作などヴォーカル＆ハモり・スタイルの新作が充実。ほかにフィンランドの懐かしい人達の新譜なども。昨年暮れに発行した「良いお年を！」新入荷ミニリストで販売した CD もジャケ写を載せて販売しています。コメントは少し短縮。

（分割払い）
*分割払いをご希望の方はお申し出下さい。最初のお支払いは請求額の半額になります。残り半額は 4 月 15 日まででＯＫです。

USA, Canada, UK & Ireland, England, Scotland, Wales, Ireland,

Europe 他, その他（セール）

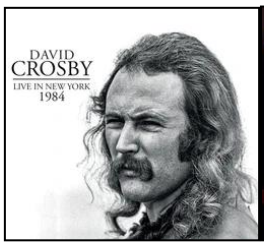
（ジャケ写掲載分が初入荷と初コメント商品です）

☆［6 年振り！Flook の新作の予約注文承ります］☆
※現地発売日 3 月 21 日。予約注文〆切り 3 月 1 日
※入荷次第発送。CD 送料 185 円。LP 送料 660 円

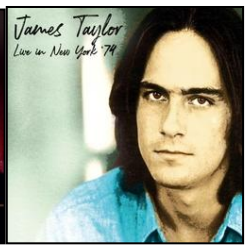


*FLOOK：Sanju（2025 作。Flatfish007）（CD）　C
*FLOOK：Sanju（2025 作。Flatfish7LP）（LP）　¥4480（税込み¥4928）

[リイシュー/Historic Recording]
（CD/Ｕ．Ｓ．Ａ．）







(David Crosby) (CS&N) (James Taylor)

*DAVID CROSBY:Live In New York 1984 B

(1984 年、ビーコン・シアターでの David Crosby のライヴ。１～３トラックはギター弾き語りだが、５曲目"Mr. Tambourine Man"と６曲目"Eight Miles High"の二曲では Roger McGuinn がゲスト出演し、ヴォーカルとギターで主役を務めて、二人でバーズ風フォーク･ロックを熱く演唱する。８トラック目"Deja Vu"、９トラック目「紫のけむり」を含む５曲メドレー、10 トラック目"Triad"、11 トラック目"Almost Cut My Hair"、12 トラック目"Wooden Ships"、続くラスト曲"Long Time Gone"では Slick Aguilar{ｴﾚｷｷﾞﾀｰ}、Austin Delone{ｷｰﾎﾞｰﾄﾞ}、Tony Saunders{ﾍﾞｰｽ}、Jay David{ﾄﾞﾗﾑｽ}がバックバンドを務めて圧巻のアメリカン･ロックを繰り広げる。ギターの弾き語りも聴けて、バンド編成ロックも聴ける贅沢なライヴだ。観客の熱狂も凄い。1984 年/2024 作。Timeline)

*CROSBY,STILLS & NASH:Earthquake Relief Concert - California 1989 B

(1989 年 10 月カリフォルニアを襲った地震被害救援チャリティ・コンサートのライヴ。ラジオ音源をリマスター収録。これぞ CSN らしい三色のカラフルな歌声のライヴ！Graham Nash の高音域のヴォーカルがあっての CSN と改めて思う。そんな中"Souther Cross"や"Suite: Judy Blue Eyes"での Steve Stills のヴォーカルと"Wooden Ships"での David Crosby のヴォーカルが揺るぎない個性を放っている。すっかり 1970 年代にタイムスリップ！観客の熱狂が凄い。特に"Teach Your Children"なんか特に。1989 年/2024 作。Timeline)

*JAMES TAYLOR:Live In New York '74 D

(1974 年 5 月 26 日に James Taylor がニューヨークのカーネギーホールで行ったコンサートのライヴ二枚組。放送局音源をラジオ曲がピカピカの音質に！James Taylor の五枚目"Walking Man"のプロモーションを兼ねて行われたコンサートで、"Walking Man"＋名曲のライヴ版といった印象。伴奏者は Hugh McCraken、David Spinozza、Rick Moratta、Andy Muson、Don Grolnick＋ホーンセクションと充実している上に Carly Simon と Peter Asher がゲスト出演。イントロを含めて夢のような全 22 曲。稀少写真と解説とともにお楽しみ下さい。1974 年/2023 作。Timeline)

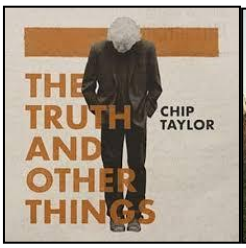
[LP/USA{Singer & Songwriter]

*SON OF THE VELVET RAT:Ghost Ranch(LP)¥4780(税込み¥5258)

(Georg Altziebler & Heike Binder の夫婦デュオ"Son Of The Velvet Rat"の本作は 11 枚目らしい。聴くなり釘付け。ソングライターの Georg の陰鬱なヴォーカルと Heike の寄り添うハーモニーの独特さと、一応ルーツロック風だが、ひねりや歪みのあ

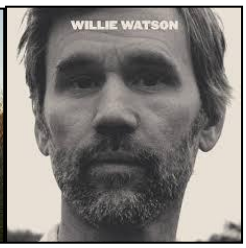
るロックの独特さは、他の同類の音楽を寄せ付けぬ個性と孤高さがある。トータルに秀逸。2024 作。Fluff & Gravy)

[CD/USA{Folk、Rock}系]



(Chris Taylor)


(Liv Greene)



(Willie Watson)

*CHIP TAYLOR:The Truth and Other Things¥2980(税込み¥3278)
(咽頭癌の寛解期に一週間で収録したという Chip Taylor 本作は25 曲収録の三枚組。1972 年のデビュー作"Gasoline"から 53 年。枯淡虚静の域の本作を聴きながら、悠然とした彼の唄の魅力は変わらないな、とつくづく思う。しかしノドに気遣いながら？うたう彼の唄は最大限にゆるく、そしてそのペースは最大限にゆっくり。中心的伴奏者の John Platania{今も現役！ギター}と Goran Grini{ウーリッツァーピアノ、ギター}は Chip Taylor の唄に寄り添った演奏で心通わせている。どの唄もこれまでの Chip Taylor の唄を煎じ詰めたような味わいがにじみ出ていて、感慨深い。他に伴奏者は Little Feat の Tony Leone{ドラムス}にペダル･スティールの魔術師 Greg Leisz{重ね録り}。３番目のディスクは 2023 年に亡くなった音楽業界の長年の友人 Chuck Flood に敬意が表されている。2025 作。Train Wreck)

*LIV GREENE:Deep Feeler C
(「このアルバムは完全に自伝的です」と言うライヴ録音の本作。聴くなり愛聴盤。若き女性 SSW の Liv Greene は Emmylou Harris や Kate Wolf や Gillian Welch 等の米国の女性 SSW の伝統を受け継ぎ、見事にオリジナルな米国フォーク･スタイルの美しい SSW アルバムを創作。自伝的ゆえか、唄それぞれに心が宿っていて、彼女の情感が裏返るヴォーカルで自然に生み出されている。またペダル･スティール、マンドリン、フィドル、オルガン、エレキギター、ベース、ドラムス等による伴奏も、この手の音楽としてはトップクラスの熟達したカントリー･フレーバーなルーツ･サウンドを作りだしていて、全てが美味。2024 作。Free Dirt)

*WILLIE WATSON:Willie Watson C
(Gillian Welch の Acony レコードから二枚のアメリカン･フォークのアルバムを出していたフォーク･シンガーの Willie Watson の七年振りの本作は、アメリカン･フォークを自身の音楽として昇華した上で、SSW として自立した唄を毅然と創作していて、その存在感ある唄は、他の米国 SSW を寄せ付けぬ見事さ。そう言うと無骨なな唄を想像されがちだが、彼の唄は繊細かつ叙情性があって、聴くほどに惹き込まれていく感じだ。彼自身のギターの弾き語りを中心にした土臭いカントリー･ロック風サウンドもほどよくて心地よい。名盤風ジャケットの予想を裏切らぬ名盤。2024 作。Little Operation)








(Joe Ely)　(Jason Isbell)　(Viv & Riley)　(Caleb & Reeb)

*JOE ELY:Driven To Drive　C

(本作は Joe Ely がツアー中などに作った「ロードソング」を１曲を除いて全て過去のホーム･スタジオ音源から Joe Ely 自身が選曲したコンピレーション･アルバム。12 曲中 10 曲が自作曲。他作曲２曲中１曲は Butch Hancock 作。コンピレーションだが、まるでライヴ･パフォーマンスのような Joe の希薄あるヴォーカルと伴奏者は一人や二人と少ないもののカントリー、テクッスメックス、ホンキートンク、ロックなどミックスのテキサス臭に充ちた気骨あるサウンドは一枚のアルバムとして完結している。改めて Joe Ely というミュージシャンの凄さに気づかされる。「私は放浪する魂だ」と言う Joe Ely の魂が詰まった圧巻のロードソング･アルバムだ。二曲目"Odds Of The Blues"は Bruce Springsteen がゲスト･ヴォーカル。}2024 作。Rack'Em)

*JASON ISBELL AND THE 400 UNIT
:Live From The Ryman.Vol.2　¥2890(税込み¥3179)

(二枚組。アラバマ出身の SSW の Jason Isbell と彼のバンドによるライヴ･アルバム。過去６年間のライヴ音源からの全 15 曲。Jason は 21 歳のときにマッスルショールズの Fame スタジオと契約をし、15 年間 Fame で活動したという。しかし Jason の音楽性は南部志向ではなく、西海岸ロック･スタイルのルーツ･ロック。Jason のヴォーカルは若々しくエネルギッシュで勢いがあるし、二台のエレキギターが前面に出た重厚感あるバンド･サウンドは滅茶苦茶かっこいいし、バンド･メムバーのバッキング･ヴォーカルを含めた一体感が凄い。今の時代に、こんなアメリカン･バンドがいるのかと、嬉しくなった。2024 作。Thirty Tigers)

*VIV & RILEY:Imaginary People　C

(これは面白い男女のフォーク･デュオだ。Viv & Riley はマルチ楽器奏者で SSW の Vivian Leva と同じくマルチ楽器奏者でシンガーの Riley Calcagno の二人とも２０代半ば。主に Vivian 嬢がリード･ヴォーカルをとり、Riley がハモるスタイルだが、Vivian のヴォーカルは米国の古いフォーク･シンガーの香りのするヴォーカルで、Richard & Linda 時代の Linda Thompson に似て聞こえもする。その Vivian のヴォーカルは大きな個性であり魅力。二人が生み出す歌唱スタイルは古臭いフォークでありながら、マルチ楽器奏者のテクとアイデアを活かして生まれた音楽は創作意欲に充ちて伝統的でありかつ多彩でポップ。と同時にノスタルジックなムードを作りだしている。二人は古いバラッドや伝統的な物語をリメイク等して、米国トラッド＆フォークを超えた独自の新感覚の音楽を活き活きと創作。すこぶる魅力的な新感覚の米国フォークだ。2023 作。Free Dirt)

*CALEB KLADER & REEB WILLMS:Gold In Your Pocket　C

(ワシントン州出身の男女のデュオ、Caleb Klauder{ヴォーカル、マンドリン、ギター}と Reeb Willms{ヴォーカル、ギター}の本作は、Gram Parsons

& Emmylou Harris のデュエットのルーツの古き良きカントリー･デュオの味わい。ヴォーカルのみならず音楽もその手の名うてのミュージシャンのバックアップを得て、カントリー、オールドタイム、ブルーグラス、ケイジャン、ホンキートンクなど古き良きアメリカン･ルーツ･サウンドが抜群。枯れた味わいのヴォーカル･デュエットと「古き良き」音楽をトップ･クラスのテクとセンスで楽しんでる感じだ。Reeb のヴォーカルの雰囲気は Kate Wolf っぽい。アメリカン･ロックの土臭さの源の音楽。ゲスト: Dirk Powell。2024 作。Free Dirt)

*SLAVOVIAN CIRCUS OF DREAMS:A Good Thief Tips His Hat C
(1998 年に結成されたという Slambovian Circus of Dreams の本作は 1999 年のデビュー･アルバムの 25 周年再発盤。リード･ヴォーカルの Gandalf Murphy はシンガーとして Ray Davies や Robin Williamson に通じる特異な、芸人的でヒューモアな個性があって、音楽的にも Kinks のようなライヴショー的大衆性や Incredible Strings Band のような前衛さ、多彩さがある。独自のモザイク模様のアメリカ音楽を体現している。凄すぎる。1999 年/2024 作。Talking Elephant)

*JEFFREY FOUCAULT:The Universal Fire C
(本作はライヴ録音だが、粗くも詩的なニュアンスのヴォーカルで毅然とうたう Jeffrey の孤高の唄の孤高さとバックバンドの土臭いルーツロックの見事さは、SSW アルバムの名盤クラス。デジタルの時代に Jeffrey の気骨ある生身の唄とこれまた気骨ある生身感のあるバンド･サウンドは驚くとともに何とも頼もしい。2024 作。Fluff & Gravy)

*KASSI VALAZZA:Knows Nothing C
(Kassi のヴォーカルは Sandy Denny に加えて、Emmylou Harris や Joni Mitchell を思い起こさせ、その歌唱は自然体で、ピュアでナチュラル。バンド･サウンドも Kassi の唄と、ハーモニー･ヴォーカルを含め細やかに一体化して自然体で土臭くナチュラル。カントリー調フォーク系女性 SSW アルバムとして珠玉の一枚。2023 作。Fluff & Gravy)

*SAMMY WALKER:Days I Left Behind C
(1986 年、Sammy Walker のイタリアでのギター弾き語りライヴ。全 19 曲。化粧なし、スッピンの Sammy Walker ソング。ギターをお伴にし、Sammy Walker 調でうたう彼の唄は優しく耳に心地よい。1986 年/2024 作。New Shot)

*GUTHRIE THOMAS:Live On Stage C
(1993 年、Guthrie Thomas のイタリアでの弾き語りのライヴ。全 11 曲。彼の誠実な唄が静寂の中、生き生きと収録されていて、ギター弾き語りフォーク･シンガー/SSW としての彼本来の魅力が 100%＋α味わえるライヴ･アルバム。1993 年/2023 作。New Shot)

*JACK HARDY:Live On Stage In Italy C
(1993 年に Jack Hardy がイタリア初公演を行ったときのライヴ。ライヴはバンド編成でメムバーは Jeff Hardy, David Hamburger, Wendy Beckerman。自身のギターに加え、ドブロ、ベース、そして Wendy のバッキング･ヴォーカルによる音楽は滋味豊かで彼の個性的な唄と一体化していて心和む。全 17 曲。1993 年/2023 作。New Shot)

*THE BURRITO BROTHERS:Together B

(嘘みたいにかっこよいカントリー･ロック。ヴォーカルもヴォーカル･ハーモニーもサウンドもあまりにも美味しすぎるワタクシ好みの常若のカントリー･ロック。2023 作。Store For Music)

*JEFFREY MARTIN:Thank God We Left The Garden C

(ポートランドの SSW の Jeffrey Martin の新作で四枚目。身震いするほどの素晴らしい SSW アルバム。2023 作。Loose Music)

*BOB MARTIN:Seabrook C

(2022 年 9 月 21 日に 80 歳で亡くなった Bob Martin のラスト･アルバム。11 曲。2008 年/2023 作。Worried Songs)

*LUKE OLSON:Panhandle Sunset A

(テキサスの当時若き SSW の Luke Olson の 2000 年作の二枚目。プロデュースは Maines Brothers の Lloyd Maines。Luke の唄は良い意味で甘ったるさがあって、バック･サウンドはノホホーンと心地よいカントリー･ロック。若草のようにフレッシュなカントリー･ロック調の SSW アルバム。ずっと聴いていたくなる。Luke Olson)

*JEFF WILKINSON:Landscapes A

(ニューヨークを拠点に活動する SSW の Jaff Wilkinson の 2005 年作の四枚目。彼のバンド"Shutterdogs"を従えて制作された本作はブルース、カントリー、フォーク、ジャズなどの音楽性がほどよくミックスしたカントリー･ロック･タイプの SSW アルバム。カントリー･ロック系 SSW アルバムとして秀逸。Brambus)

*THE ORIGINAL HARMONY RIDGE CREEK DIPPERS
:Zola And The Tulip Tree Z

(Mark Olson,Victoria Williams,Mike Russell のトリオの 1999 年作。Mark Olson のヴォーカルも Victoria Williams のヴォーカルもそしてカントリー･フィーリングなサウンドもゆるいゆるい。西海岸産ノホホーンなルーツ･ロックの金字塔。ゲスト:Don Heffington{ﾎﾞﾝｺﾞ他},Eric Heywood{ペダル･ｽﾃｨｰﾙ}。Creek04802)

*THE TEXAS KELLYS:Stay All Night Y

(アイルランドの老舗レーベル"Mulligan"から発売された６人組ルーツロック･バンドの Texas Kellys{Waterboys の Steve Wickham もメムバー}の 1991 年作。野趣なヴォーカルもルーツ色濃いごった煮サウンドは二流センスもあって、職人芸級。何も知らずに聴いたら、百戦錬磨の米国のヴェテラン･ルーツロック･バンドと思うだろう。検索したら米国アマゾンで 104 ドルで売っていた。Mulligan)

*MARK STUART:Songs From A Corner Stage Y

(Stacey Earle のご主人の Mark Stuart の 1999 年作のデビュー作。本作はのギターの弾き語りによる SSW 然とした曲調の悲喜こもごも感のあるタイプの曲と南部～ルーツ･ロック･タイプの曲が混在。彼のルーツ志向の唄の数々は心底感動的。ゲスト:Stacey Earle。Gearle)

[CD/BRITAIN&IRELAND(SSW 系)]

*IAIN MATTHEWS & AD VANDERVEEN
:Greetings From Grolloo C

(2003 年 3 月 1 日、Iain Matthews とオランダの SSW の Ad Vanderveen の共演ライヴ。Iain Matthews の音楽は SSW の原点に戻ったかのような、ギターの弾き語りによる素直な唄ばかり。Iain が 9 曲で

Adが6曲でリード･ヴォーカルを取っているが､唄はソロ＋デュエットの構成のためか､Iain Matthewsのソロ･ライヴの印象が強い。Ric Sandersが二曲で飛び入り共演。2003年/2024作。Radz)

*IAIN MATTHEWS:Excerpts From Swine Lake A
(1998作。Blue Rose)

*MATTHEWS SOUTHERN COMFORT:The New Mine C
(2020作。MIG Music)

*MATTHEWS SOUTHERN COMFORT:The Woodstock Album C
(2023作。MH Music)

*CHRIS BRAIN:Steady Away C
(Chris Brainの通算二枚目。冴え渡るギターとNick Drakeを想起させるヴォーカルとサウンド。Chris Brainの唄は自然の風景や鳥などを題材にした唄が多く､Nick Drakeの陰鬱な資質とは異質だが､｢内省的｣な志向性で不思議に重なる。驚くのはギターのスタイルが多彩化していること。そのため英国フォーク的に音楽性の膨らみを生んでいて､音楽が豊かになった。2023作。Big Sun)

※LPは歌詞付ですが､CDには付いていません。CD購入者にはLPに付いた歌詞をコピーしてCDにお付けします。

*COLIN MACDUFF:Seperations B
(看護師退職後に高齢SSWとしてデビューしたColin Macduffの新作で二枚目。本作のテーマは｢別れ｣。重いテーマだが､Colinの唄は､前作と同様に自身が爪弾く響きの良いギターの弾き語りをベースにしていてひたすら穏やかで優しい。彼の人生経験から生まれたとてつもなく優しい唄の魅力は計り知れない。音楽は人生経験そして心。w.Maria Quinn,Angus Lyon,Jenna Reid。2024作。Gran's House Studio)

*COLIN MACDUFF:The Past And The Sky B
(スコットランドのSSWのColin Macduffの2022年のデビュー･アルバム。｢デビュー･アルバムは遅すぎない｣と自身が言う本作は､不思議な夜景のブックレットも自作の全12曲も夢色に染まっていて､どの唄もお休みソングのように心地よい。w.Angus Lyon,Jenna Reid他。Colin Macduff)

*JOHN B SPENCER:Left Hand Of Love A
(1998年リリースのJohn B.Spenser[1944-2002])のコンピレーション･アルバム。全12曲＋ヒドゥントラック1曲。改めて聴いて驚いた。ゆるい曲調のナムバーばかりを選んだのだろうか。John Bの唄は飄々として渋く､いわば米国ルーツ･ロック志向の二流センスの英国ロック。フォーク､ブルース､テックスメックス､パブロック､カントリー･ロック､オールドタイム等米国ルーツ･ロックの旨み成分たっぷり。コンピだが､一枚のアルバムとして魅力的。Round Tower)

*NAOMI BEDFORD:Tales From The Weeping Willow Z
(Naomiはまるで英国のEmmylou Harris。今のEmmylouではなく､70年代の。Naomiの声の響きは白人系アメリカン･ルーツ音楽の故郷のような響きなのだが､土臭さよりはむしろ優美さや夢見心地感が感じられるもの。鮮やかなアコースティック･ギターの伴奏を中心にしたサウンドも新鮮。2011作。Dusty Willow)

[CD/FAIRPORT&FRIENDS]



(Fairport,1970)

*FAIRPORT CONVENTION:Philadelphia Folk Festival 1970 B
(Fairport の"Full House"がリリースされた 1970 年に Fairport が第 9 回フィラデルフィア･フォーク･フェスに出演したときのライヴ音源を WHYY-FM で完全復元し、リマスターされたいわば"Full House"のライヴ版。"Staines Morris"{最高！},"Banks Of The Sweet Primrose","Jenny's Chickens/The Mason's Apron"は Full House"未収録。"Sloth"は 11 分超。ラインナップは Sandy Denny 脱退後の最強メムバー、Richard Thompson, Simon Nicol,Dave Pegg,Dave Mattacks,Dave Swarbrick。稀少写真と解説とともにお楽しみ下さい。40～50 年前に発売されてたら大騒ぎ。2024 作。Timeline)

*DAVID CARROLL AND FRIENDS:Bold Reynold Too C
(二枚目。本作も皆さん絶好調。前作同様にフェアポートのフォーク･ロックとグリフォンの中世ルネサンス･サウンド 寄りのフォーク･ロックを織り交ぜたフォーク･ロックでワクワク。David の味のあるヴォーカルを中心にバッキング･ヴォーカルを含めて大らかな一体感があって、Fairport と Gryphon の音楽の見事な融合を成しえていて、新たな英国フォーク･ロックを体現している。終始祝祭ムード。2024 作。Talking Elephant)

*DAVID CARROLL AND FRIENDS:Bold Reynold B
(David Carroll と Fairport&Gryphon の選抜メムバーとによる David Carroll & Friends の一枚目。David Carroll の心優しい人間性と Fairport や Gryphon の音楽への愛が詰まった心豊かなフォーク･ロック。2023 作。Talking Elephant)

*SIMON NICOL & RIC SANDERS:Greetings From Grollo C
(2003 年 3 月 1 日オランダでのライヴ。Ric Sanders のフィドルの演奏が付いた Simon Nicol のギター弾き語りの曲を中心に Ric Sanders のフィドルと Ric Sanders のギターのジャンルを超えたデュエット曲を加えた構成。"Crazy Man Michael"や"Rosemary's Sister"{Huw Williams 作}や"The Hiring Fair"{Ralph McTell 作}等の名曲がギター＆フィドルの素朴な伴奏で気分新たに味わえる。2003 年/2024 作。Radz)

*SDP:Vol Two D
(SDP{Sandy Denny Project}は Tradarr の Marion Fleetwood, Gemma Shirley,PJ Wright,Mark Stevens＋Sally Barker{再結成 Fotheringay,Poozies}のスーパー･フォーク･ロック･バンド。本作は二枚目で、Sandy Denny ソングを Tradarr 流に新たな英国フォーク･ロックで創作したもの。リーダー格の PJ Wright は{FotheringayII,The Dylan Project,Little Johnny England}は「忠実な複製を提供するトリビュート･バンドではなく、復活と再解釈、素材を楽しみ、Sandy Denny の言葉では言い表せない称賛すべき唄に個々の特徴を加えることがすべて」と。鳥肌立

つ素晴らしさ。2024 作。SDP)

*TRADARR:Cautionary Tales C

(Sandy Denny Project の Marion Fleetwood,Gemma Shirley,PJ Wright,Mark Stevens に Gregg Cave,Guy Fletcher,Brendan O'Neill の七人組フォーク・ロック・バンド"Tradarr"の 2015 年のデビュー・アルバム。彼らが体現するのは"Liege & Lief"をベースにした今の時代のオリジナルな英国フォーク・ロック。男女のヴォーカルをはじめバンドの演奏もその気概が十分に発揮されていて、彼らのポジティヴなフォーク・ロックは感動的。ゲスト:Dave Pegg,Chris Leslie,Rick Sanders,Jerry Donahue。Hedge Of Sound)

*LITTLE JOHNNY ENGLAND

:Greetings From Grolloo ¥2890(税込み¥3179)

(二枚組。Fairport/Fotheringay スタイルのフォーク・ロック・バンド"Tradarr"、"SPD"のリーダー格 PJ Wright 率いるフォーク・ロック・バンド"Little Johnny Enland"の 2003 年、オランダでのライヴ。メムバーは PJ Wrigh,Gareth Turner,Guy Fletcher,Mat Davies{ﾍﾞｰｽ},Edd Frost{ﾄﾞﾗﾑｽ}。Fairport スタイル＋モリス・ダンスの影響を受けた滅茶苦茶かっこいいフォーク・ロック。P16 のブックレット付。全 20 トラック。2003 年/2024 作。Radz)

*LITTLE JOHNNY ENGLAND:Little Jonny England A

(最高。2001 作。Fellside)

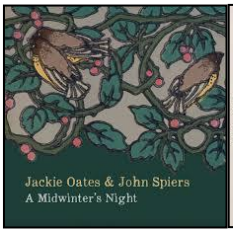
*LITTLE JOHNNY ENGLAND:Mercs & Cherokees A

(最高。2001 作。Fellside)

*CARLA FUCHS:Songbird B

(本作は"Songs Of Sandy Denny"の旗のもと、ドイツ人の SSW でマルチ演奏家の Carla Fuch がサンディーが残した未完成の曲をオリジナルに完成させたもの。伴奏はピアノやギターの弾き語りをベースにしたシンプルな音作りで、Carla Fuch の唄の世界を優しく包む。どの唄にも新たに優しい命が宿っている。2023 作。Talking Elephant)

[CD/ENGLAND]



(Jackie & John)



(Janice & Jon)

*JACKIE OATES AND JOHN SPIERS:A Midwinter's Night C

(Jackie Oates & John Spiers による本作は、クリスマス期の伝統的な祝祭の歌と曲を集めたクリスマス・アルバム。今やイングランドのトラッド界を代表する Jackie のシンギングはイングリッシュ・トラッド的に理想的な味わいで美しいし、二人のハーモニー・ヴォーカルを含め、Jackie のリコーダー又は弓奏楽器と John のジャバラとのコラボは心を通わせてあって神業的に絶妙。モリス・ダンスの曲調を含め、ふくよかな英国トラッド調のトラッドは Chris Wood & Andy Cutting のふくよかな英国トラッドを想い起こさせる。名盤誕生。2024 作。Needle Pin)

*JANICE BURNS & JON DORAN:Great Joy To The New　　D
（イングランドの男女のデュオ"Janice{ヴォーカル、マンドリン、テナーギター、ピアノ他} & Jon{ヴォーカル、アコギ、ブズーキ、フィドル、ピアノ他}"の新作で二枚目のアルバム。キャロルやクリスマス時期にうたわれてきたトラッド曲を多く含むが、厳密に言えば、真冬の一年で最も厳しい季節のトラッド曲集。これが滅茶苦茶素晴らしい。二人の凛として穏やかで陰りのあるシンギングと絶妙のハーモニー・ヴォーカルは、理想のブリティッシュ・フォーク/トラッド。若い二人だが、まるでイングランドのトラッドの歌心を熟知したシンガー＆演奏家のように彼らの滋味豊かな音楽は心に深く響く。Produced by Andy Bell。名盤誕生。2024 作。JBJD003）
*ELIZA CARTHY AND JON BODEN:Glad Christmas Comes　　C
（Eliza Carthy & Jon Boden のクリスマス・アルバム。トラッド回帰の Eliza のシンギングとフィドル演奏は実に素晴らしく、かつ相方の Jon のシンギングも Eliza に呼応するかのように入魂のシンギングで圧巻。Produce by Andy Bell。16 曲。2023 作。Hudson）
*WATERSON:CARTHY:Broken Ground（1999 作。Topic）　　A
*JON BODEN　& THE REMNANT KINGS:Parlour Ballads　　C
（Jon Boden の新作はビクトリア朝時代に全盛期を迎えたパーラー・ソング{バラッド}をタイトルしたアルバム。「用語の技術的な意味でのパーラー・ソングのコレクションではありません。古くて愛着のある、少し調子が狂った家庭用ピアノの音を呼び覚まし、親友との嬉しい再会を目指しています」という本作は、"On One April Morning"や"Bonny Bunch Of Roses"や"Rose Of Allendale"など約半数の曲は英国フォークやトラッド・ファンに馴染みの曲。Jon はビクトリア朝時代に想いを馳せ、一曲一曲を英国のフォーク・ソングとしてピアノを奏でながら、やや感傷的に朗々とうたう。感動はジャンルを超える。Produced by Andy Bell。11 曲。2024 作。Hudson）
*JON BODEN:Songs From The Floodplain　　A
（デラックス・エディション限定盤。2009 作。Navigator）
*CHRIS MANNERS:Bar Doors And Bang The Shutters Down　　C
（英国の SSW でギター奏者の Chris Manner の四枚目。1970 年代以降数多くのギター弾き語りのフォーク・シンガーが産声を上げ、20 世紀後半の英国フォーク・シーンを盛り上げてきたが、彼のシンギングとギターはその時代の英国フォークの味わいと魅力を律儀に保持していて、時代錯誤感に襲われる。それほど彼のシンギングとギターは英国フォークのコアの魅力を純粋に保持していて、その上で独自のフォークを英国フォーク的に気高く美しく花開かせている。15 曲。ゲスト：Jon Loomes。2024 作。99YRCD04）
*HOME SERVICE:A Live Transmission　　C
（今年で結成 45 周年を迎えた Home Service の何と 8 年振りの新作。本作は今年の３月に行った三つのライヴ音源からのライヴ CD で、メムバーは大きく入れかわって、John Kirkpatrick もいなくなって、かつてのメムバーはエレキギターの Graeme Taylor {Gryphon でも活動}とドラムスの Michael Gregory のみ。特筆すべきはヴェテラン・トラッド・シンガーの Bob Fox がリード・ヴォーカルでフロントに立ったこと。Bob Fox は Home Service 円熟のフォーク・ロックの真ん中で堂々たるシンギングを披露する。2024 作。Talking Elephant）

*HOME SERVICE:Live 1986 A
(John Tams がリード･ヴォーカルの Home Service 全盛時の 1986 年ケンブリッジ･フォークフェスでのライヴ。1996 年/2011 作。Fledg'ling)
*STEVE TURNER:Curious Times C
(これぞイングランドのトラッドの真骨頂！と豪語したくなるヴェテラン･トラッド･シンガーでコンサーティーナ奏者 Steve Turner の新作。通算９枚目。自身が奏でるコンサーティーナをお伴にゆるくコブシの利いた何とも味わい深いシンギングは､齢を重ねた心あるシンガーのみが体得できる味わいだろう。w.Martin Carty,Moira Craig,Rob van Sante,Liz Turner, Allan Rose,Rikki Gerardy。全 13 曲。2023 作。Tradition Bearers)
*THE ROSIE HOOD BAND:A Seed Of Gold C
(偽りの愛の物語"The Swallow"で幕開けする Rosie Hood Band～Rosie Hood{ｳﾞｫｰｶﾙ､ｷﾞﾀｰ､ｳｸﾚﾚ､ﾌｨﾄﾞﾙ}､Nicola Beazley{ﾌｨﾄﾞﾙ､ｳﾞｫｰｶﾙ}､Rosie Butler-Hall{ﾌｨﾄﾞﾙ､ｳﾞｫｰｶﾙ}､Robyn Wallace{ﾒﾛｰﾃﾞｨｵﾝ､ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ､ｳﾞｫｰｶﾙ}～の新作はイングランドの美しき女性トラッド･シンガー･アルバムの魅力に充ち満ちていて､心奪われる。2023 作。Little Red)
※フォーク･エリート達の間で Rosie Hood の地位を真に確立した黄金の輝きに充ちた素晴らしいアルバム」{folking.com}。
*NICK HART & TOM MOORE:The Colour Of Amber D
(トラッド･シンガーの Nick Hart が Nick Hart の各ソロ･アルバムでエンジニアリング等を担当していた Tom Moore がヴィオラとハーモニウムの演奏で共演。Nick はフォーク･リバイバル以降に陽の目を見たイングランドの豊富なトラッド曲からお気に入りの曲を英国トラッド調で朗々とシンギングするのだが､音楽は中世･ルネサンス音楽調。「このデュオによる最初のアルバムはここ数年の他の英国の伝統的なアルバムよりもはるかに優れている」{folkradio}。2023 作。Slow Worm)
*THE MUSIC OF WILLIAM KIMBER C
(コンサーティーナ奏者でモリス･ダンサーだった William Kimber{1872-1961}の未発表曲多数含む 32 曲収録マルチメディア機能付 CD。２冊の解説書付。1999 作。EFDSS)
*NICK WYKE AND BECKI DRISCOLL:A Handful Of Sky A
(男女の二人組の Nick & Becki による 2014 年作。双方がイングランドのトラッド･シンガーとして魅力的なシンギングを聴かせる上に二人がデュオで奏でるダンサブルなフィドルが新鮮で快い。またヴィオラに持ち替えれば重厚感が生み出される。イングランドのトラッドの気品と香りに満ちた英国トラッドの快作。WildGoose)
*THE CANNON HILL IRREGULARS:In Their Prime Z
(Anthony Ingle,Graeme Taylor,Michael Gregory,Jon Davie の四人{短期間を含め三人が Albion Band の元メムバー}のツワモノから成る The Cannon Hill Irregulars の 2017 作。英国フォーク＆カントリーダンス･バンドのフォーク･ロックの何と魅力的で楽しいこと！言うなれば Albion Dance Band～Albion Band 系フォーク･ロック･スタイルで存分にフォーク･ロックしていてメチャ最高！Talking Elephant)
*PETE CASTLE:False Waters Z

(フォーク蒐集家＆研究家でトラッド･シンガーの Pete Castle の
1995 年作。イングランドを中心にアイルランドや英国のトラッ
ド/バラッドをギター等の弾き語りを中心に家族他と演唱した
本作は「これぞイングランドのトラッド！」の輝きを放ってい
て感涙。14 曲。Steel Carpet)

*BOB PEGG:The Last Wolf Z

(元 Mr.Fox で元妻の Carole Pegg や Nick Strutt との共演盤が素晴
らしい Bob Pegg の 1996 年作のソロ二枚目。本作は前作から 20 年
の間の成果を厳選してまとめたアルバムで、曲のテーマは様々
だが Bob Pegg の不思議な物語の世界へ誘うのに適したヴォーカ
ルは最高潮で、見事に Bob Pegg 流ブリティッシュ･フォークの世
界を創作している。ゲスト:Chris Coe。Rhiannon)

[CD/USA,SCOTLAND]



(Mary,Julie,Karine)

*MARY CHAPIN CARPENTER･JULIE FOWLIS･KARINE POLWART
:Looking For The Thread C

(コロナ禍の終盤に Mary Chapin Carpenter の呼びかけで実現した
という本作。Mary 作が４曲、Karine 作が３曲、Julie 作が１曲それに
ゲール語の伝統歌が２曲の計 10 曲。それぞれが自作曲のリード･ヴ
ォーカル{伝統歌２曲は Julie}を務め、残りの二人がハーモニー･
ヴォーカルを務めるスタイルで、歌姫三人のヴォーカルはそれぞ
れに素晴らしく、しかも歌姫三人のソロ＋ハーモニー･ヴォーカル
の三色の糸を紡ぐような丁寧で心からの歌声がまた素晴らしい。
一枚のアルバムで各シンガーの唄を楽しめるうえに、心豊かな気
分になる。久し振りに聴く Karine Polwart のヴォーカルもいつも
と変わらず胸キュン。全体としてコンテンポラリー･フォークの音
作りだが、録音技術のせいか、ヴォーカルもサウンドも自然な奥深
さが感じられる。タイトル曲のようにより糸のような三人の寄り
添う気持ちが本作をとても豊かなものにしているように思われる。
歌詞カード付。ジャケットもブックレット{歌詞}も美しい夜明け
色。2025 作。Lambent Light)

[CD/SCOTLAND]





(Ainsley Hamill) (Rachel & Aaron)

*AINSLEY HAMILL:Fable C

(2010 年結成のトラッド･バンドの Barluath のリード･ヴォーカルで､スコットランドの BBC ラジオの"Scotland Young Traditional Musician"賞や"Gaelic Singer"賞などの受賞候補者に選出されたという経歴の女性トラッド･シンガーの Ainsley 嬢の本作は彼女の三枚目。ゲール語のウォーキング･ソング"Ailean,Ailean,'S Fhad an Cadal"で幕開けする本作は自作曲３曲＋ゲール語訳ニーナ･シモン作と黒人霊歌のセット＋伝統歌７曲の構成。トラッド･シンガーとしては既にヴェテランの風格で､本作はトラッド･シンガーからその上を目指した意欲作。彼女のスタイルは音作りを含めて､洗練された汎フォーク的というか伝統歌等を自身の唄としてうたいきっていて､伝統歌等に新たな命を吹き込んでいる。ラストは Toby Sheer のブズーキの伴奏でうたうロバート･バーンズの"What Can A Young Lassie"で幕。この曲が本作を引き締めている歌詞{ゲール語歌詞は英訳付}付。ブックレットの歌詞一曲一曲に描かれた絵が素晴らしい。2025 作。Ainsley Hamill)

*RACHEL WALKER & AARON JONES:Amongst The Wild Rowans C
(スコットランド屈指のゲール語のトラッド･シンガーの Rachel Walker と Old Blind Dogs のメムバーでシンガー＆ギター､シターン奏者の Aaron Jones による二作目。高潔で美しく凛とした Rachel のシンギングと柔和で清々しいフォーク調の Aaron ヴォーカルが織り上げる音楽は､隅々まで歌心が行き渡ったハイセンスでハイレベルなスコティシュ風味のトラッド。二人のソロ･ヴォーカルのみならず､心を寄せ合うデュエットの美しさも胸キュンの美しさ。ちなみに Paul Brady の唄で知ったというトラッド曲"I Am Youth"{"Welcome Here Kind Stranger"に収録}は､Aaron Jones が初期に影響を受けたという Paul Brady と Andy Irvine に捧げられた曲で､長い旅と愛する人達との別離の感情が込められている。絶品。P14 のブックレット{P14}も美しい。2024 作。Rosdearg)

*TRAIL WEST:Thirsty Work D
(西ハイランド地方とその島々の出身者から成る六人組フォーク･ロック･バンド"Trail West"の新作で通算五枚目。結成時はケーリー･バンドだったという彼らの音楽は､そのダンスの躍動感をロックの方向に洗練していったかのようにダイナミックなスコティッシュ･スタイルのフォーク･ロックを体現していて圧倒される。ヴォーカルは Jonathan Gillespie と Seonaldh MacIntyre の二人のシンガーは､いかにもスコティッシュ･シンガーらしい堂々たるヴォーカルでこれまた圧巻。生で聴いたら狂喜必至。2024 作。TW)

*COAST:The Turning Stone Z
(Runrig クラスのフォークロック･バンド。Paul Eastham のヴォーカルも抜群。ゲスト:Duncan Chisholm。2011 作。Ruabhal)

*RUNRIG:In Search Of Angels Y
(最高のスコティッシュ･フォーク･ロック。1999 作。Sony Music)

*MAIRI SINE CHAIMBEUL:Thall An Loch Aillse X
(Mod の優勝者でスコットランドのゲール語の女性トラッド･シンガーの Mairi Sine Chaimbeul の 2007 年作。w.Mary Ann Kennedy,Seoras Campbell,Findlay Napier,Hamish Napier,Ali Hutton,James Graham,Gillebride MacMillan。2007 作。Macmeanmna)

[CD/WALES]



(Pedair)

*PEDAIR:Dadeni C

(共にトラッド･シンガーでハープ奏者の Sian James と Gwenan Gibbard の二人に、ウェールズ語の詩人でギター奏者の Gwyneth Glyn とフォーク･シンガーの Meinir Gwilym のウェールズを代表する女性アーティストの四人組"Pedair"の二作目。「主にウェールズのハープに特徴的なキラキラしたハープの伴奏で四人の歌姫によってうたわれるウェールズ語の唄は四色の毛糸で編まれたマフラーのよう。ソフトな響きのウェールズ語だが、その響きに色彩感と美しさ温かさが備わった感じだ。ハーモニーの組合わせも独創性があって多彩で、ハーモニー･ヴォーカルの鮮度が高い。ソロでの魅力は言うまでもない」の前作のコメントそのままの印象の二作目。ウェールズ語の唄を共にうたう喜びに充ちていて、ヴォーカル･ハーモニーの美しさはさらに増している。P12 のブックレットはウェールズ語歌詞とウェールズ語と英語解説付。2024 作。Sain)

※言語の問題について悩むのではなく、Dadeni のような美しいアルバムを聴いて楽しんでほしい。あなたの一日が明るくなるだろう。(Folking.com より)

[CD/IRELAND 系]

デジパック･タイプを含め、元々開封されているものが多数あります。



(Half Room)



(Frances Morton)



(Kathleen Loughnane)

*THE HALF ROOM:The Half Room D

(Half Room は Lumiere の Pauline Scanlon とアイリッシュ･ヴォーカル･トリオ"Whileaways"の Nicola Joyce の二人の女性シンガーと、シンガーでナイロン弦ギター奏者の Eoin Wynne とシンガーで金属弦ギター奏者の Fabian Joyce の二人の男性シンガー＆ギター奏者の四人組ヴォーカル･グループ。一曲一曲それぞれがリード･ヴォーカルをとって、他の二人又三人がハモるスタイル。Pauline のシンギングの素晴らしさは言うに及ばずだが、Nicola の凛として哀愁を帯びたシンギングと Dick Gaughan を穏やかにしたような Eoin のシンギングには一聴と同時に心奪われる。そしてどの曲も親密なハモりの素晴らしさに心奪われる。Fabian

の唄はStan Rogersの名曲"The Lock Keeper"の一曲のみで、10曲中９曲でギター奏者として耳に新鮮な気品あるアイリッシュ・サウンドを作りだしている。10曲中７曲がトラッド曲。心洗われるアイリッシュ・トラッド・シンギング・アルバムだ。ヴォーカルとギター伴奏のバランスの良さは、Lunasaの Donough Hennessyのプロデュース力による成果だろう。2024作。The Half Room)

*FRANCES MORTON:Sliocht C

(グラスゴー生まれで現在アイルランドに住むアイリッシュ・フルート奏者のFrances Mortonのデビュー・アルバム。タイトルのSliochtは痕跡または血統の意。父親が好きだった曲やセッションなどで教わった曲や子どもの頃に好きだった曲やアルバムや{Vinnie Kilduffの}教則テープ{この曲のみホイッスル。この曲最高！}などで覚えた曲などを演奏するのだが、どの音楽も愛情深いというか心のこもった演奏で、{スコティッシュも二曲ほどあるが}、アイリッシュって良いな～、と素直に思える音楽。Eamon McElholm{プロデューサでもある},Ciarán Tourish, Seamus O'Kane,Julie Langan,Mark Maguire,Malcolm Stitt, Ryan O'Donnell等の名演奏者達との息もぴったしで、Franceのフルートはよくうたっている。Francesのパートナーでゲーリック・シンガーのDoimnic Mac Giolla Bhrídeが一曲泣けるシンギングを披露。本作は昨年亡くなったメイヨー州出身の父親に捧げられている。P16のブックレットは英語とゲール語による曲の解説とゲール語の唄の英訳など。アルバム発表会は昨年末、Altanの Maireád Ní Mhaonaighの司会で行われたとのこと。ところでジャケ写の堅い表情のFrancesとジャケット内側のミュージシャンっぽいFrancesとは見た目別人に見える。2024作。FM2024CD)



アルタンのマレードとフランセス・モートン

*KATHLEEN LOUGHNANE

:Patrick O' Neill's Manuscripts Volume 2 D

(アイリッシュハープ奏者カスリーン・ロックナーンの新作。本作も伝統音楽とゲール語写本の収集家のパトリック・オニール{1765-1832}の楽譜写本に収められた曲{18世紀後半から19世紀初頭にかけて南ティペラリーとキルケニーで人気を博した様々な音楽]をアイリッシュハープのみの演奏で発掘・蘇生させたアルバムの第二集。カスリーンはオニールの楽譜写本に羽根ペンで書かれた、かつてアイルランドで親しまれた音楽をほぼ写本の楽譜に忠実に、そして軽やかな伴奏を付けて演奏する。その音楽はリズミカルで優雅で瑞々しく、アイルランドやスコットランドの伝統音楽の素朴な美しさに満ちていて素晴らしい。曲目解説付。11曲。2024作。Reiskmore Music)

*MOYA BRENNAN:Nollaig Gaelach C

(クラナドのシンガーでハープ奏者ののMoya Brennanのクリスマス･アルバム。以前にも"An Irish Christmas"というクリスマス･アルバムをリリースしているが、クラナド流ケルテック･サウンドで化粧された前作に較べて、曲は基本的にアイリッシュ･ハープの弾き語りに音を重ねた音作りが成されていて、Moya特有のケルティックな幽玄さを保持しつつ、化粧度は控えめで、より素のMoyaっぽいというか、よりアイリッシュっぽい。加えて、クリスマスの華やかさは控えめで、祈るような哀感が漂っている。齢を重ねて至った境地から生まれた独自のクリスマス音楽。2024作。Beo)

*MOLLY DONNERY & THE CIDERHOUSE REBELLION
:A Little Bit Slanted ¥3150(税込み¥3465円)

(歌詞ブックレット＋CDセット。本作は受賞歴のある女性アイリッシュ･トラッド･シンガーのMolly Donneryと英国の男性二人組のCiderhouse Rebellion～Murray Grainger{ｱｺ} & Adam Summerhayes{ﾌｨﾄﾞﾙ}～のコラボ･アルバム。ゲール語と英語とでうたうMollyのアイリッシュ･ソングは軽やかで清々しく、Ciderhouse Rebellionの二人はMollyのメチャ素晴らしいシンギングと楽器で響き合うような演奏をしていて、Mollyの美味シンギングをナチュラルに高めている。2024作。Under The Eaves)

*CUAS:Cuas C

(CuasはSeamus Begleyの娘のMéabh Ní Bheaglaoich{ｳﾞｫｰｶﾙ､ｱｺ}, Nicole Ní Dhubhshláine{ｺﾝｻｰﾃｨｰﾅ､ﾌﾙｰﾄ}, Niamh Varian-Barry{ｳﾞｫｰｶﾙ､ﾌｨﾄﾞﾙ他}, Kyle Macaulay{ｷﾞﾀｰ､ﾌﾞｽﾞｰｷｺ}から成るアイリッシュ･グループ。本作は友人や家族の前で録音されたライヴ･アルバムで、ノセノセの音楽も空気感も滅茶苦茶アイリッシュなライヴ感に充ち満ちていて、大盛り上がり。Méabhのゲーリック･シンギングの二曲とMéabh & Niamhのデュエットの一曲の計三曲はアイリッシュ･トラッド･シンギングは清楚なシンギングで感動的。2024作。Cuas)

*ELIXIR:Elixir C

(録音は1983年10月と1984年３月。本作はブルターニュのシンガーでティンホイッスル、フルート奏者のPol Huellouの呼びかけで集まったミュージシャンによるセッション･アルバム。集ったのはLiam Weldon{ｳﾞｫｰｶﾙ}, Sean Howley{ﾌﾞｽﾞｰｷ}, Brian O'Donoghue{ｷﾞﾀｰ}, David Hopi Hopkins{ﾊﾞｳﾛﾝ}の四名。呼びかけ人のPol Huellouのティンホイッスルの演奏が素晴らしく、ブズーキ、ギター、バウロンの演奏も誘発されるように見事な演奏を繰り広げる。Liam Weldonの貴重シンギング二曲収録。1984年/2021作。Goasco Records)

*THE McGOLDRICK FAMILY:One For The Road C

(Michael McGoldrickと彼の姪三人とによる新作。いつもとちょっと違うMichael McGoldrick。フルートの演奏がメインだが、イリアンパイプス、ティンホイッスルに加えて、ギター、ベースにヴォーカル{ﾊﾞｯｷﾝｸﾞ･ｳﾞｫｰｶﾙだが}までやっていて、スリリングな演奏もあるものの、何より家族でアイリッシュを演唱して楽しむこと！そんな楽しさがバッチリ楽しめる気分ホッコリ＆笑顔なアイリッシュ。クレジットにはない12曲目はMichaelの父親で名ティンホイッスル奏者Brendan McGoldrickによるティンホイッスル･ソロ。2024作。Boxroom Music)

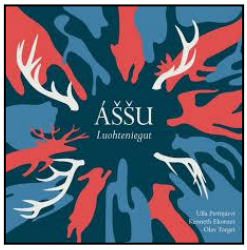
*JOHN CARTY & MICHAEL McGOLDRICK:At Our Leisure　B
（John Carty{ﾊﾞﾝｼﾞｮｰ､ﾌｨﾄﾞﾙ}と Michael McGoldrick{ｲﾘｱﾝﾊﾟｲﾌﾟｽ､ﾌﾙｰﾄ他}によるデュオ･アルバム。本作はバンジョーとイリアンパイプスのデュエットを中心にした伝統音楽回帰的なアイリッシュ。英国に移住したアイルランド移民達によって演奏されていたアイリッシュなどどこかアットホームで親近感を覚えるアイリッシュ。2022 作。Racket）
※↑ジャケも CD も新品ですが､ジャケットの隅に何かで押したような痕が数カ所あります。
*CILLIAN VALLELY & DAVID DOOCEY:The Yew & The Orchard　C
（Lunasa のイリアンパイプス奏者の Cillian Valley と Grada のフィドル奏者の David Dooce のデュオ･アルバム。ふたりが奏でるアイリッシュの見事さは言葉を失うほど。イリアンパイプスとフィドルによるアイリッシュの魅力が詰まっている。全てが超一流。Sean Og Graham の巧妙なギターもお見事。2023 作。Cillian Vallely & David Doocey）
*TEADA:Coisceim Coiligh　B
（ゲストに Séamus Begley{4 曲参加]を迎えて制作された Teada の結成 21 周年を祝う 2022 年作。フィドル､ボタン･アコーディオン､フルート､ギター､ブズーキ､バウロン､キーボードによるアイリッシュは音楽が多彩でスローテンポからミディアムテンポそしてアップテンポまで縦横無尽。その職人芸は驚くばかり。さらに生前最後の録音記録と思われる Séamus Begley の柔和なゲーリック･シンギングが涙を誘う。最高のアイリッシュ！Gael Linn）
*THE LARK ON THE STRAND:The Lark On The Strand　C
（本作は 2000 年一月に Sesoaimhín Ní Bheaglaíoch{Macalla/ｳﾞｫｰｶﾙ},Charlie Piggott{De Danann/ｱｺ},Peter Browne{1691, Bothy Band [Paddy Keenan の代役] /ｲﾘｱﾝﾊﾟｲﾌﾟｽ},Gerry Harrington{ﾌｨﾄﾞﾙ}が"The Lark On The Strand"の名でアイルランド･ツアーをしたときのライヴ･アルバム。アイリッシュ･ミュージック界のプロフェッショナル三人によるアイリッシュは、様々なタイプのダンス曲をあの手この手の名演奏で舌鼓を打たせる。加えて Sesoaimhín の滋味豊かなゲール語のシンギング付。全 34 曲！2000 年/2022 作。LOTS001CD）
*LILLEBJORG NILSEN ・ ANDY IRVINE:Live In Telemark　C
（本作は 1994 年にノルウェーのフォーク･フェスでの Andy Irvine とノルウェーの SSW の Lillebjorn Nilsen の共演ライヴ。2020 年作。Heilo）
*PADDY KEENAN･TOMMY O'SULLIVAN:The Long Grazing Acre　Z
（Bothy Band の創設メムバーでにイリアンパイプ奏者の Paddy Keenan とギリスト兼シンガーの Tommy OSullivan のコラボ･アルバム。2001 作。Hot Conya）
*TOMMIE CUNNIFFE:Unbuttoned　Z
（ロスカモン出身のアコ奏者の 2007 年作。クレアとゴールウェイ曲が多いが､飛び跳ねるリズムの一音一音が絶え間のないメロディーとなって気持ちよく滑空する。職人芸。Tommiecunniffe）
*GERRY O'CONNOR&GILLES LE BIGOT:In Concert　Z
（La Lugh の Gerry O'Connor{ﾌｨﾄﾞﾙ}とブルターニュ屈指のギター奏者 Gilles の 2005 年 12 月ブルターニュでのライヴ CD。「変幻自在、緩急自在」という言葉が相応しい Gerry の空前絶後のアイリッシ

ュ･フィドルの名演奏が矢継ぎ早に展開される。2006 作。
Lughanasa Music)

[CD/USA{Celtic,Trad}]

*JEFF WARNER:Roam The Country Through Z
(フォークソング収集家でフォーク･シンガーの Anne & Frank Warner 夫妻の息子 Jeff Warner の 2018 年のソロ。Jeff のスタイルは米国の古謡に忠実なスタイルで、ギターやバンジョーやコンサーティーナを奏でながらうたう唄は、そのまま米国古謡の素朴な味わいに充ちていて、うっすら英国古謡の世界へとつながる味わいの唄もある。Pete Coe の音楽パートナーでトラッド･シンガーの Alice Jones が大半の曲でヴォーカル･ハーモニーとホイッスルなどの演奏で共演。17 曲。WildGoose)

[CD/LAPLAND]



(Assu)

*ASSU:Luoteniegut C
(サーミ人でヨイク･シンガーの Ulla Pirttijärvi がヴォーカルの Áššu の６年振りの新作。久し振りに聴く Ulla のヨイク。どんなヨイクのアルバムよりも深い味わいがあって驚かされる。本作収録の曲は動物、自然、冷たい風、友人や親戚の思い出など Ulla にとって夢のような曲だという。呪術的な響きのヨイクに様々な物語がうたい込まれているのだが、ヴォーカルに磨きがかかっているうえに Kenneth Ekornes のパーカッションと Olav Torget の各種ギターとンゴニによるアフリカ音楽のような土俗的な伴奏を伴って、インパクトの強いヨイクにレベルアップしている。内ジャケットに見る Ulla はラップランドでサーミ人として生きるたくましそうな中年おばさん。ゲスト:Olov Torget {５曲でヤギの角笛}。2025 作。Nordic Notes)

*ULLA PIRTTIJARVI:Ruossa Eanan C
(サーミ人シンガーの Ulla Pirttijärvi の 1997 年リリースのデビュー作。収録時 26 歳。デビュー時より見事なヨイク節。Atrium))

[CD/NORWAY,SWEDEN,DENMARK]



(Viik)

*VIIK:Sagt C

(Viik はノルウェーのカリスマ的なシンガーの Elisabeth Vik 嬢率いるノルウェー、スウェーデン、デンマーク出身メンバーによる汎ノルディック･フォーク･グループ。妖精の歌声の Elisabeth の美麗で軽やかなシンギングは正に白眉な上にシスター{中世のシターン系弦楽器}、フィドル、コントラバス、パーカッション、ハーモニカ等によるバンド･サウンドはある種ファンタスティックな汎ユーロ･トラッド＆フォーク･ロックを創作していて魅惑的。中世音楽の要素を取り入れた豊かなバンド･サウンドに乗って、Elisabeth はアップテンポの唄もまたスローな唄も自由自在。その一体感は完璧＋α。彼らは中世の物語の世界やおとぎ話の世界へと誘う。2024 作。Nordic Notes)

[CD/FINLAND]



(Salamakennel)

*SALAMAKENNEL:IV C

(1989 年、1990 年、1992 年に枚のアルバムをリリースした後にバンド活動を停止していた Salamakennel ～Arto Järvelä{ﾌｨﾄﾞﾙ、ﾏﾝﾄﾞﾘﾝ、ﾆｯｹﾙﾊﾙﾊﾟ}、Hannu Saha{ｶﾝﾃﾚ}, Kimmo Känsälä{ﾍﾞｰｽ}、新加入の Antti Kettunen{ｱｺｷﾞ、ｴﾚｷ、ﾂｨﾀｰ、ﾍﾞｰｽ}の 30 数年振りの新作。聴くなり懐かしさがこみ上げてくる JPP スタイルのフィンランドの伝統音楽のペリマンニ音楽＋α。メインは Arto Järvelä。Arto はフィンランドの伝統的フィドル音楽を愛しむように演奏し、共演メムバーが響演するスタイルで、カンテレの大家 Hannu Saha{フィンランドのフェスで名刺交換した思い出}のカンテレと Antti Kettunen のツィターが爽やかさを添えている。ゲスト: JPP, Jonna Tervomaa{ヴｫｰｶﾙ}。収録時 Arto Järvelä は 60 歳。フィドルの音色があたたかい。2024 作。Bafe's Factory)

[CD/SWEDEN]

*LJUS OCH LYKTA:Ljus Och lykta B

(三姫一太郎の四人組トラッド･バンド"Ljus Och lykta"の爽快デビュー･アルバム。曲目のほとんどはスウェーデン舞台芸術庁のアーカイブ。コレクションで見つけ出したトラッド曲だそうだが、彼らは若々しく自由闊達なソロ･シンギング＆ハーモニーで数々の伝統歌を生き返らす。伴奏楽器はフィドルとギター。スウェーデンのトラッドの香り立つフィドルが良い感じで北欧トラッド色を高めている。2022 年。Caprice)

*HOVEN DROVEN:Trad Z

(Trad と題された Hoven Droven の 2021 年作。1989 年結成以来、30 年以上にわたってスウェーデン･スタイルのフォーク･ロックを果敢に創作してきた彼らが初心の帰りつつ、腕を上げた演奏力と表現力で取り組んだ 30 周年記念アルバム的性格の快作。Heilo)

[CD/NORWAY]

*JUNI HABEL:Carvings C

(ブリティッシュ･フォーク･タイプのノルウェーの女性 SSW、June Habel の 2023 年作。ほとんどの曲を祖母の家で録音をしたという本作は、さざなみのようなギターが特徴的なギターの弾き語りで、心を鎮め密やかにうたう彼女の唄の世界にじわじわっと引き込まれる。極上の 70 年代ブリティッシュ･フォーク風アルバム。唄は英語。Basin Rock)

[CD/LITHUANIA,ESTONIA,LATVIA]



(Baltic Sisters)

*THE BALTIC SISTERS:Varav/Varti/Vartai C

(Baltic Sisters はリトアニア、エストニア、ラトビアの４人の女性歌手～Marion Selgal{ｴｽﾄﾆｱ}、Laurita Peleniūtė{ﾘﾄｱﾆｱ}、Vineta Romāne{ﾗﾄﾋﾞｱ}、Liene Skrebinska{ﾗﾄﾋﾞｱ}～からなる女性ヴォーカル･グループ。四人の出逢いは 2022 年にリスボンで開催された Womex。リトアニアの合唱{ポリフォニック･ソング}に対する共通の情熱を通じてグループ結成したという。四人はそれぞれ自国で伝統音楽のバンド{Marion Selgal は 6hunesseq のヴォーカル}やシンガーや歌唱指導者としての活動中のバルティック･トラッドの現役バリバリの歌姫。彼女等は口琴の伴奏やコクレの伴奏で、あるいは無伴奏でバルト三国の伝統歌を三色のシンギングでカラフルなヴォーカル･ミュージックを創作する。生まれた唄は美しく不思議で力強い。表ジャケットは三姫だが内ジャケットは四姫{麗しい！}。全 14 曲。2024 作。CPL Music)

[CD/ESTONIA]

*6HUNESSEQ:Ma Olen Maa Peal V66ras C

(6hunesseq は女性四人エストニアの女性四人組トラッド･グループ。結成は 2021 年。ヴォーカルは Marion Selgall と Greta Liisa Grunberg の二姫。二人のソロ･シンギングとデュエットはフィンランドのヴァルティナのシンギング･スタイルと通じる印象だが、Marion と Greta の唄は控えめで優美で厳か。二人の唄もパイプオルガン、フィドル、タルハルパ{リラ型の弓奏弦楽器演奏}、タンバリン、片面太鼓等による民俗性豊かな伴奏も深い森の中に誘われるようなしっとりとした不思議感がある。二人の掛け合い唄も呪文のようにも聞こえる。北欧系トラッド･アルバムとして秀逸。2024 作。Nordic Notes)

*SILD:Tro Z

(Sild はエストニアの女性シンガーでフィドル奏者の Sille Ilves とウェールズのギター、ハモンドオルガン奏者の Martin Leaman のデュオ。Sille の極北的で神秘的なシンギング{トラッド･シンガーとしてトップ･クラス}は絶品な上に、二人が奏でるアコー

スティック･トラッド･サウンドは厳かな深みがある。エストニアのトラッドとウェールズのトラッドとが彼ら流にナチュラルにブレンドされていて、トラッド･アルバムとして秀逸。Produced by Ceri Rhys Matthews。2008 作。Fflach)

[CD/NETHERLANDS]

*CHIMERA:Obstakel D
(オランダの Stoof から発売されていたオランダの 5 人組トラッド･グループ"Chimera"の 1981 年作の二枚目の CD 盤。当時のタムボリンのベストセラー。美声ヴォーカルの Marry Verkade を要した彼らのトラッドは中世ヨーロッパ風のエレガントさを内包した魅惑のユーロ･トラッド。オランダ発ユーロ･トラッド風エレガントな情緒と優美さと新鮮さは不変。ユーロ･トラッドの名盤。1981 年/2024 作。Pan)

[CD/SIBERIA]

*VEDAN KOLOD:Birds C
(Vendan Kolod はロシアはシベリアのクラスノヤルスクの家族三名から成る民俗音楽グループ。ヴォーカルの Tatiana のヴォーカルはサーミ･シンガーのヨイクのような呪術的な神秘性があって孤高。またカンテレ系古楽器のグスリや口琴や軍笛や各種打楽器などの古代ロシアの民族楽器のほかブズーキ、ギター、マンドリン、カリンバ等による土俗性豊かな演奏は、物悲しげで、異世界音楽のような独特な民俗音楽を創作している。全曲「鳥の唄」。歌詞英訳付き。2024 作。CPL-Music)

[CD/MORDOVIA]

*MEREMA:Eryamon' Koytneva C
(五姫と二太郎の七人組エレクトリック･トラッド･バンド"Merema"の 2022 年作。これは強烈。メムバー達はモルドヴィアの村々で現地調査を行い、モルドヴィアの伝統的民謡を収集し研究。失われつつある民謡を女性シンガー達による伝統的な節回しと呪術的な響きのポリフォニー･コーラスで甦らす。唄も凄みがあるが、馴染みのない伝統楽器と家庭用品＋電気楽器による土俗性豊かで斬新な演奏も圧巻。歌詞英訳付き。CPL-Music)

[CD/HUNGARY]

*KOLINDA:Incantation D
(Kolinda の 1997 年作。初仕入れ？メムバーは Peter Dabasi{ヴォーカル、ﾏﾝﾄﾞﾁｪﾛ、ｶｳﾞｧﾙ他}, Dora Kovats{ヴォーカル、ヴァイオリン、ﾌﾙｰﾄ}, Gyorgy Róbert{ﾘｺｰﾀﾞｰ、ｵｰﾎﾞｴ}, Lilla Vírhelyi{ヴォーカル、ヴァイオリン、ｶﾞﾄﾞｩﾙｶ他}, Peter Koszegi{ﾀﾞﾌﾞﾙﾍﾞｰｽ}。ハンガリーの民族音楽とバルカン半島の音楽とアラブ音楽等の音楽要素を混ぜ合わせた独創性のある Kolinda 流ユーロ･トラッド/ワールド･ミュージック。Pan)

*KOLINDA:Forgotten Gods D
(Kolinda の 2000 年作。初仕入れ？？メムバーは Kriszta Kováts{ヴォーカル}, Péter Dabasi{ヴォーカル、ﾏﾝﾄﾞﾁｪﾛ、ｶｳﾞｧﾙ他}, Dora Kovats{ヴォーカル、ヴァイオリン、ﾌﾙｰﾄ} Peter Koszegi{ﾀﾞﾌﾞﾙﾍﾞｰｽ}, Lilla Vírhelyi{ヴァイオリン, Tibor Pongrácz{ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ}, Csaba

Gyulai{ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ},Endre Juhász{ｵｰﾎﾞｴ}。女性シンガーの
Kriszta Kováts を迎え、汎東欧～西アジア的悠久感のある
Kolinda 流異種交配エキゾティック・ミュージックを創作。Pan)
*MESZECSINKA:Allj Bele A Melybe C
(北欧の魔性的トラッドを彷彿させるフォーク・ロック・グループ"Meszecsinka の 2019 年作。彼らの深淵な野性味と無国籍でエキゾティックな音楽は天下一品。加えて聖と俗を併せ持つ Oláh Annamaria 嬢のエキゾティックなヴォーカルも天下一品。孤高のハンガリー発フォーク・ロック。CPL-Music)

☆ ☆ ☆ ☆ その他色々 ☆ ☆ ☆ ☆

※在庫各 1～2 枚。検品してお送りします。
(CD/USA,Singer&Songwriter ほか)
*JOE HENRY:Fireman's Wedding(1994 作。Mammoth) D
*THE HARRY SMITH CONNECTION "A Live Tribute To The Anthology Of American Folk Music A
(Roger McGuinn,John Sebastian & The Band,Geoff Muldaur, Dave Van Ronk,New Lost City Ramblers,Peter Stampfel 他。全９曲。1997 作。Smithsonian Folkways)
*TOM PAYNE:Ten Lucky Pennies A
(約 30 年前の当店 SSW アルバム・ベストセラー。1996 作。Waterbug)
*STANCEY EARLE AND MARK STUART:Must Be Live A
(二枚組。2003 作。Gearle)
*ARLO GUTHRIE:Alice's Restaurant(1996 作。Rising Sun) A
*THE BEST OF MOUNTAIN STAGE "Volume Two Live" A
(June Tabor,Maura O'Connell,Delbert Mcclinton,John Prine, Jimmie Dale Gilmore,John WesleyHardin,REM,Billy Bragg 他。1991 作。Blue Plate)
*LIVE FROM THE MOUNTAIN STAGE "Lounge" A
(Dan Hicks,Dave Van Ronk,NRBQ,Jane Siberry,Mose Allison, Holly Cole,Bob Thompson 他。1998 作。Blue Plate)
*HUGH BLUMENFELD:Rocket Science Z
(Jack Hardy 門下生 SSW の Hugh Blumenfeld の 1998 年作。自身のギター弾き語りを要にした誠実な唄たち。SSW/フォークの原点。w.Mark Dunn。1-800-Prime-CD))
*ONE FELL SWOOP:Look Out Z
(女性シンガーの Dade Farrar がヴォーカルの軽やかながら煮込み味のルーツロック。1998 作。Brambus)
*ROBERT EARL KEEN:Gravitational Forces Z
(Produced by Gulf Morlix,Robert Earl Keen & Ray Kennedy。ほっこり。2001 作。UMG)
*THIS NOTE'S FOR YOU TOO! "A Tribute To Neil Young" Z
(二枚組。Ad Vanderveen,Tom Rapp,Continantal Drifters,Sonya Hunter,Walkabout,Steve Wynn,etc. 37 曲。1999 作。Inbetweens
*PROFESSOR LOUIE AND THE CROWMATICS:Wings On Fire Z
(Levon Helm と Rick Danko に捧げた曲３曲を含む 13 曲。2013 作。Woodstock)
*MARGO HENNEBACH:Michaelean(1996 作。1-800-Prime-CD) Y
*WESTERN ELECTRIC:Western Electric Y

(Produced by Sid Griffin。Gadfly)
*TOWNES VAN ZANDT:In The Beginning Y
(バーコードの２ミリほどの穴が開いています。2003 作。Compadre)
*BILLY C,FARLOW;I Ain't Never Had Too Much Fun Y
(ゲスト:Fred James,Mary-Ann Brandon。1991 作。Appaloosa)
*DARRYL HOLTER:Darryl Holter Y
(ルーツロック・スタイル SSW。w.Greg Leisz。2008 作。Fellside)
*SKIP GORMAN:Lonesome Prairie Love Y
(ゲスト:Connie Dover。1996 作。Rounder)
*KASEY JONES:Never Wear Panties To A Party(2002 作。IGO) X
*JUNE CARTER:Live Recordings From The Louisiana
Hayride(2003 作。Scena) X
*THE SILOS:Heater(1996 作。Normal)
*TAMMY FAYE STARLITE:On My Knees X
(ミニアルバム。レーベル名・発売年不記載)

(サンプル CD/USA)
*GARY CORNELIUS:Mending Fences Y
(ブックレットに７～８ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。
最高にほっこりな SSW アルバム。影響を受けたシンガーとして
Neil Young,Nick Drake,Bob Dylan,Townes Van Zandt,Bert
Jansch,Joni Mitchell,Dan Penn,Gram Parsons 他。1995 作。
One Man Clapping)
*SUSAN PIPER:New On The Planet X
(バーコードに７～８ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。
ゲスト:Lucy Kaplansky,Catie Curtis,Richard Shindell。
1997 作。Sliced Bread)
*TROVA:Trova X
(バーコードに７～８ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。
1991 作。Red House)
*GRACE DARLING:Imaginary Lover X
(バーコードに７～８ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。
1997 作。NYNO)
*KENNY JACKSON AND FRIENDS:Over The Mountain X
(オールドタイム・ミュージック。裏ジャケットに Promo と書かれ
たほぼ新品のサンプル盤。2004 作。5-String Productions)

(中古 CD/USA,Singer&Songwriter)
*THE SCHRAMMS:Dizzy Spell Z
(ブックレットを留めるホッチキスがサビついていて、サビが染
みついているが、彼らのルーツロックは滅茶苦茶最高。CD 自体は
新品。1998 作。Checkered Past)
*SARAH:Flight Of The Stork ¥200
(ブックレットを留めるホッチキスがサビついていて、サビが染
みついます。CD 自体は新品。1989 作。Great Northern Arts)

(CD/USA{Trad,Celtic 他})
*MAGGIE SANSONE:Dance Upon The Shore A
(1994 作。Maggie's Music)
*GAIL WILLIAMS:Women Of A Certain Age Z

(副題"Songs From The American Tradition"。Martin Carthy 推薦の米国トラッド･アルバム。渋い英国トラッド風。2004 作。Rossendale)

*ARM & HAMMER:A La Carte X

(Anna Duff{ﾊﾝﾏｰﾀﾞﾙｼﾏｰ}と Stefan George{ｷﾞﾀｰ}のデュオ。発売年不記載。Blue Rhikky)

(CD/Canada)

*BRUCE COCKBURN:Dart To The Heart(1994 作。True North) Z

*LAWRENCE GOWAN:But You Can Call Me Larry X

(Produced by Marotta。ゲスト:John Sebastian。1993 作。Anthem)

*LORRANE SEGATO:Luminous City(1997 作。True North) X

*GANDHARVAS:Sold For A Smile(1997 作。Watch Music) X

(サンプル CD/Canada)

*CORBIN MURDOCH & NATUTICAL MILES:Tell Me Again
How This Place Got Its Name X

(バーコードに一ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。2005 作。Corbin Murdoch)

(CD/Canada{Trad})

*GWAZIGAN:Y'avait Du Mande A

(Sylvan Barou{ｱｲﾘｯｼｭ･ﾌﾙｰﾄ､ﾛｰ･ﾎｲｯｽﾙ}ほかブルターニュの名うてのトラッド･ミュージシャンの五人組"Gwazigan"の 2000 作。彼らが挑むのはカナダのフランス系ケベックのトラッド。聴き親しんだケベックのトラッド＋アイリッシュ～ケルティックな要素が加味されてていてノリ抜群！Coop Breizh)

(CD/UK{SSW,Folk,Rock})

*CAVIL:Marces' Tails A

(おそらく英国人{?}SSW の Gareth Cavill の 2010 年のソロ。内省的で虚無感漂う魅惑の 1970 年代ブリティッシュ･フォーク風アルバム。KHZ110)

*GRAHAM LYLE:Something Beautiful Remains Z

(2003 作。Hypertension)

*KILBURN AND THE HIGH-ROADS:Handsome Z

(未発表音源曲３曲を含む全 18 曲。1999 年/2004 作。Castle)

*ELBOW JANE:3 Side Island Z

(アコースティックな西海岸カントリーロック風ブリティッシュ･フォーク。秀逸。2009 作。Fellside)

*SUZANNE CHAWNER:On Primerose Hill Y

(牧歌的フォーク。1994 作。Round Tower)

(サンプル CD/UK)

*JULIAN DAWSON:Move Over Darling A

(バーコードに７～８ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。w.Dan Penn,Richard Thompson,Roches 他。1997 作。Compass)

(CD/England)

*PETER BELLAMY:Fair Annie A

("Peter Bellamy"{1975 作}と"Fair Annie"{1979 作}の"２in１"
＋未発表音源曲４曲の計 33 曲。Fellside)
*JOHN KIRKPATRICK:The Dance Of The Demon Daffodils Z
(2009 作。Fledg'ling)
*BENJI KIRKPATRICK:Boomerang Z
(w.John Kirkpatrick,Sue Harris,Seth Lakeman 他。2008 作。
Navigator)

(CD/Scotland)
*SCOTTISH TRADITION 16 "William Matheson" B
(二枚組。"Gaelic Bards & Minstrels"。1993 年/2000 作。Greentrax)
*SCOTTISH TRADITION 21 "Orkney - Land,Sea & Community" A
(全 34 曲。2004 作。Greentrax)
*ALEX CAMPBELL:In Copenhagen A
(1965 年のライヴ。2002 作。Storyville)
*BOB BLAIR:Reachin' For The High,High Lands A
("Traditional Bearers"シリーズ。スコティッシュ・トラッド&
バラッドの推薦盤。2000 作。The Living Tradition)
*THE CLUTHA:Live From Harvard A
(Gordeanna McCulloch がヴォーカルのスコティッシュ・トラッド・
グループの 1981 年のライヴ。2019 作。The Clutha)
*JENNA AND BETHANY REID:Escape(2010 作。Loften) A
*KEVIN HENDERSON・JENNA REID・KEVIN MACKENZIE:Da Homin A
(スコティッシュ・トラッドの名作。2006 作。HRMCD001)
*BONNIE RIDEOUT:Soft May Morn Y
("Music From The North Highlands & Western Isles Of
Scotland"。1994 作。Maggie's Music)
*RORY CAMPBELL・MALCOLM STITT:Field Of Bells Z
(1999 作。Lochshre)
*FINE FRIDAY:Gone Dancing Z
(Kris Drever,Nuala Kennedy,Anna-Wendy Stevenson のスーパー
トリオの 2002 年作。Foot Stompin')
*FINE FRIDAY:Mowing The Machair Z
(Kris Drever,Nuala Kennedy,Anna-Wendy Stevenson のスーパー
トリオの 2004 年作。Foot Stompin')
*ALEXANDER McCALL SMITH & JAMES ROSS:These Are The
Hands(2019 作。Greentrax) Z
*DONNIE MUNRO:Donnie Munro Z
(Runrig の D.Munro の 2000 年作。Vital Spark)
*DONNIE MUNRO:Fields Of The Young Z
(Runrig の D.Munro の 2004 年作。Hypertension)
*CANTYCHIELS:Cantychiels Z
(Andy Harrison{ﾘｰﾄﾞ・ｳﾞｫｰｶﾙ},Annie Grace{Iron Horse},Dave
Cantwell,Marianne Campbell,Rory Campbell,Brian McAlpine,
Nick Turner,Brian W McFie,Gregor Lowrey,Black Eyed Biddy,
Harry Sullivan,Anya Campbell から成るスーパー・スコティッ
シュ.バンドの 1999 年作。Greentrax)
*ROCK SALT & NAILS:4621(1996 作。4th Recording Co.) Y
*JOHN CARMICHAEL AND HIS BAND
:Carmichael's Ceilidh Ball(2007 作。Lochshore) Y

*COINNEACH:Life In A Scottish Greenhouse Y
(1997 作。Lochshore)
*DONALD BLACK･MALCOLM JONES:Close To Home Y
(2000 作。Macmeanmna)
*KELTIK ELEKTRIK 2:Just When You Thought It Was Safe
To Sit Downe... Y
(Tony McManus,Jack Evans,Mike Katz,Simon Thoumire,Kathryn Nicol から成るスーパー五人組。2000 作。Greentrax)
*ROBIN LAING:Walking In Time(1994 作。Greentrax) Y
*FERGUS MACKENZIE･SIMON THOUMIRE:Exhibit Y
(1995 作。Iona)
*HEAT THE HOOSE 2 Y
(ケルティック･フィドル集。John McCusker,Claire Mann,Aidan O'Rourke,Marianne Campbell,Jennifer & Hazel Weigley,Liz Doherty 他。全 16 曲。2000 作。Foot Stompin')
*FIONA KENNEDY:Maiden Heaven(2004 作。Pixie) Y

(サンプル CD/Scotland)
*CELTIC SOUL X
(表ジャケットに"Promotional Copy"のスタンプが押されたほぼ新品のサンプル盤。Iron Horse,Old Blind Dogs 他。2005 作。Lochshore)
*HUDSON SWAN BAND:Flyte Of Fancy X
(表ジャケットに"Promotional Copy"のスタンプが押されたほぼ新品のサンプル盤。1998 作。Lochshore)
*DALEWOOD AUCKLAND & DISTRICT PIPE BAND:Southern Gael X
(ジャケット裏のバーコードがマジックで消されたほぼ新品のサンプル盤。1998 作。Monarch)

(中古 CD/Scotland)
*BACHUE CAFE:Bachue Cafe Z
(経年劣化元新品 CD。ハープ奏者の Corrina Hewat とピアノ奏者＆ギターの David Milligan の二人組 Bachue Cafe の 1996 年作。今聴いても､Corrina のハープはセンス＆テクニック抜群の素晴らしさ。David のジャズっぽい演奏との見事な融和。1996 年作。Highlander Music)

(CD/Ireland 他)
*BOSTON COLLAGE IRISH STUDIES PROGRAM PRESENTS
"Gaelic Roots" C
(二枚組。Seán Potts,Paddy Keenan,Mark Simos,Cathal Hayden,Séamus Egan,John Williams,Tony Cuffe,Johnny O'Leary,Jackie Daly,Máire O'Keeffe,Natalie MacMaster & Tracey Dares,Dáithí Sproule & James Kelly,Liz Carroll & Zan McLeod Máire O'Keeffe & Jackie Daly and more! 1997 作。Kells)
*MIGHTY SESSION! C
(Dolores Keane,Sharon Shannon,Begley & Cooney,Brendan Begley & Frankie Lane,Vinnie Kilduff & Gerry O'Connor,Tommy O'Sullivan,Derek Hickey,Donal Murphy,Matt Cranitch

and more! 1997 作。Kells)
*THE UNWANTED:Pay Day C
(Cathy Jordan と Rick Epping と Seamie O'Down のトリオ。2018 作。Whirling Discs)
*LUKE DANIELS:The Mighty Box A
(二枚組。w.Seamie O'Dowd,Dennis Cahill,Junior Davey。2011 作。Wren)
*BALLIASLOE FAIR "Early Recordings Of Irish Music In America"(1998 作。Traditional Crossroads) A
*VINNIE KILDUFF:The Boys From The Blue Hill A
(Tin Whistle アルバムの名盤。1990 年/2008 作。Mulligan/Compass)
*EMMETT GILL & JESSE SMITH:The Rookery(2012 作。GS001) A
*THE VERY BEST OF IRISH LOVE SONGS A
(三枚組。2003 作。Pegasus)
*JOHN WILLIAMS:John Williams Z
(Solas の J.Williams の 1995 年作。w.Micho Russell,Martin Hayes, Randal Bays,Eoin O'Neill。Green Linnet)
*BRENDAN O'REGAN:A Wind Of Change Z
(w.Alec Finn,Johnny McDonagh,Bill Whelan,Sean Smyth,Arty McGlynn 他。1991 作。Mulligan)
*SAW DOCTORS:All The Way From Tuam(1992 作。Shamtown) Z
*SAW DOCTORS:Villains?(2001 作。Shamtown) Z
*BRENDA SMYTH:Basil And Thyme Z
(w.Mairtin O'Connor,Jim Higgins,Brendan O'Reagan,Sean Tyrrell,Jim Murray,Laoise Kelly,Trevor Hutchinson 他。2002 作。JHRCD001)
*SARAH McQUAID:When Two Lovers Meet Z
(w.Niamh Parsons,Gerry O'Beirne,John McSherry,Trevor Hutchinson,Rod McVey 他。1997 作。Sarah McQuaid)
*MICK MOLONEY:McNally's Row Of Flats Z
(w.Athena Tergis,Billy McComiskey,John Doyle 他。2006 作。Compass)
*TOMMY SANDS:To Shorten The Winter Z
(w.Dolores Keane,Arty McGlynn,Steve Cooney,Liam O'Flynn, Ben Sands 他。2001 作。Green Linnet)
*AN TAIN:Deep End Of The Ford Z
(Lorcan MacMathua{ヴォーカル},Martin Tourish,Sean MacErlaine, Eogan Neff,Flaithri Neff の五人組。2011 作。LMM011002)
*MAIRTIN PHEAITS:Traditional Songs From Connemara Z
*DEZI DONNELLY & MIKE GOLDRICK:Champions Of The North Z
(1995 作。Magnetic Music)
*PATRICK STREET:All In Good Time(1993 作。Green Linnet) Z
*THE BEST OF PATRICK STREET Y
(18 トラック/34 曲。1995 作。Nector)
*NUALA KENNEDY:The New Shoes Y
(ゲスト:Cathal McConnell。2007 作。Compass)
*JOHN REGAN:Let Down The Blade Y
(ゲスト:Paddy Glackin。2000 作。BeaumeX)
*SUSAN McKEOWN AND LINDSAY HORNER:Through The Bitter Frost And Snow(1997 作。Prime CD)

*SHASKEEN:25th Silver Jubilee Collection Y
(1978 年から 1994 年の音源から 22 トラック。1995 作。GTD Heritage)
*AOIFE CLANCY:Silvery Moon Y
(w.Donal Clancy,Aoife O'Donovan,Liam Bradley,Julie Graub, James Blennerhassett,Lissa Schneckenburger 他。2002 作。Appleseed)
*AOIFE CLANCY:Soldiers & Dreams Y
(w.Gabriel Donahue,Joanie Madden,Jerry O'Sullivan,Bobby Donovan。1997 作。Ark Albums)
*DONALL DONNELLY･BRIAN HANLON:Driven Y
(John Doyle と Cathal Hayden が推薦文。2005 作。SHDD4181)
*THE DISTANT HILLS:The Distant Hills Y
(カナダの二人組。副題"Traditional Airs And Melodies For Flute And Harp"。Edward Bunting コレクションからの全 23 曲。発売年不記載。North Star)
*TOM CUSSEN & TONY HOWLEY:There's Always Room In Our House(発売年不記載。CHCD1) Y
*CELTIC CONNECTIONS Y
(Altan,Boys Of The Lough,Dougie Maclean,Wolfstone,Cherish The Ladies,Deanta,Dervish,Old Blind Dogs and more!1994 作。The Living Tradition)
*DAVEY ARTHUR & CO.:Celtic Side Saddle X
(w.Phil Beer,Steve Knightley,Brian O'Reilly,Pete McPhail 他。1994 作。Park)
*SCREAMING ORPHANS:Lonely Boy X
(2011 作。Tir Chonaill Music)
*CELTIC SPIRITS(2005 作。Delta Music) X
*CELTIC DREAMS "The Power Of Darkness" X
(2005 作。Delta Music)

(CD-ROM/ＬＥＳＳＯＮ)
*DEREK HICKLEY:B/C Button Accordion Tutorial A
(B/C ボタン･アコーディオンの初心者からプロ級までのレッスン CD-ROM。Mad For Trad)
*GERRY O'CONNOR:Irish Tenor Banjo Tutorial A
(アイリッシュ･テナー･バンジョーの初心者からプロ級までのレッスン CD-ROM。Mad For Trad)
*SEAN Og POTTS:Uilleann Pipes Tutorial A
(イリアンパイプスの初心者からプロ級までのレッスン CD-ROM。Mad For Trad)

(CD/Mallorca)
*MARIA DEL MAR BONET:Primeres Cancons A
(マジョルカ島の歌姫 Maria の 67～69 年の初期のアルバム{"Que Volen Aquesta Gent?","El Nadal No Te 20 Anys","Si Vens Prest","Cancons De Menorca"}からの編集 CD。当時禁曲となった"Que Volen Aquesta Gent?"を含む 11 曲。1997 作。Blau)



*本年も宜しくお願いします。(船津)

ご注文は　song@tambourine-japan.com　又は tambour@ya2.so-net.ne.jp (CC 用)へ。
♪一部入荷が遅れている商品があります。発送は 2 月 19 日（水）から始める予定です。